

開会あいさつ 越境地域政策研究フォーラム趣旨説明

川井 伸一氏（愛知大学学長）

戸田 敏行氏（愛知大学三遠南信地域連携研究センター長）

日 時：2021年2月27日（土）10：00～10：15

場 所：愛知大学豊橋校舎（オンライン開催）

○司会（駒木）：皆さま、おはようございます。本日は、土曜日の午前中から、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより愛知大学三遠南信地域連携研究センター主催の「第8回越境地域政策研究フォーラム」を開催いたします。本年度は、コロナ禍のなかで初の試みとして、このようにオンラインでの開催となりました。なにぶん不慣れな点もあるかと存じますが、ご容赦いただければと思います。なお、マイクはミュートをお願いいたします。

それでは、開催に先立ちまして、本学学長の川井伸一より、皆さまにご挨拶をいたします。お願いします。

○川井：皆さま、おはようございます。今回のフォーラムはオンライン形式ということで、豊橋の会場には少数ですが、オンラインからは多数の方々に参加されているかと思っております。ご参加ありがとうございます。

本日は、第8回目の「越境地域政策研究フォーラム」ということですが、本フォーラムは本学の三遠南信地域連携研究センターが、毎年実施している比較的規模の大きな研究会でございます。今回は佐々木浩様による午前の基調講演とディスカッション、そして午後におきましても三つのテーマのセッションで計13本の研究報告が予定されており、さまざまなテーマで盛りだくさんの内容となっていると思います。

それぞれ重要なテーマであると認識しておりますが、コロナ禍の現状を考えると、コロナ禍のなかで行政のあり方がどうなのかということが、やはり大きな課題の一つではないかと思っております。この間、政府・都道府県、そして、その下での各市町村、保健所等々は、医療関係者を含めて、大変ご苦労が多かったと思います。平常時にはあまり浮き彫りにされないような課題

がこの緊急事態だからこそ浮き彫りにされるという点がいろいろあったかと思っております。例えば、感染症に対する情報提供や医療提供のありかた等です。一例を挙げますと、当初、愛知県と名古屋市の間では感染症のPCR検査のデータの扱い方について食い違いがあり、問題になったという新聞報道がありました。名古屋市ではPCR検査の受検者総数を県に報告せずに、陽性者数のみを報告していたということです。そのため、一時、県単位の陽性率が分からない状況がありました。もっと重要なのは、感染者の医療対応をどうするのか、特に入院の調整です。病院の受入能力や医療スタッフの制約もあり、保健所を中心に感染者の入院対応に大変ご苦労されています。それを見ますと、新型コロナ感染症に対応する病院の役割分担や行政側の地域内または地域を跨ぐ支援体制のあり方などいろいろと課題があるのではないかと思います。今回のフォーラムでの研究報告のなかにコロナ禍と関連するテーマもいくつかありますので、興味深く感じております。

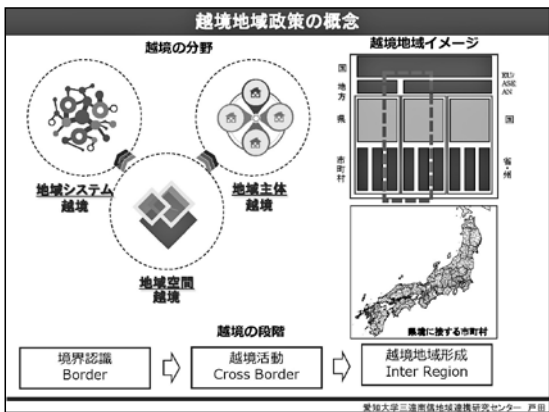
さて、本学は2018年度末に「私立大学研究ブランディング事業」に採択されまして、まだ正味2年足らずですが、今回のフォーラムはその研究ブランディング事業の一環としての研究成果報告という位置付けもでございます。

本日のフォーラムが、越境地域政策ないしは地域計画を考える際の貴重な機会となればと思っております。皆さまにおかれましては、どうぞ最後までお付き合いいただきますよう、よろしく願いいたします。私の挨拶は以上でございます。どうもありがとうございました。

○司会：ありがとうございました。それでは、続きまして、当センターセンター長の戸田敏行より、当センターの概要および本フォーラムの趣旨について説明さ

させていただきます。それでは、準備ができましたらお願いします。

○戸田：おはようございます。ご紹介いただきました愛知大学三遠南信地域連携研究センターの戸田と申します。私からは、第8回「越境地域政策研究フォーラム」の趣旨説明ということで、本センターがおこなってきました活動経緯、それから、研究対象としております三遠南信のことについて、少し触れさせていただきます。



スライド1「越境地域政策の概念」

まず越境地域政策とは、いったい何なのかということですが、大きくここに三つのことを書いております。一つ目が、越境の分野としてどう考えているか。それから、越境地域のイメージをどう考えているか。それから、越境の段階をどう考えているかということです。

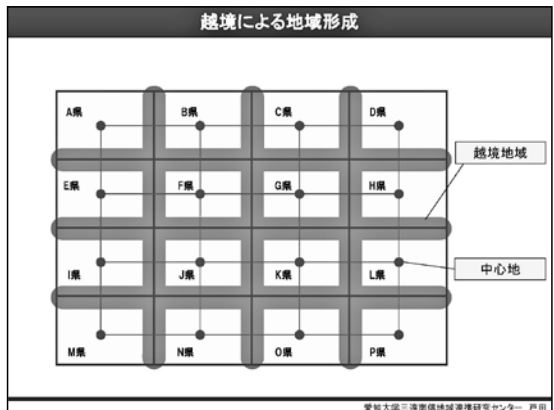
まず越境の分野ということですが、まずは空間的な越境ということで、これは一番分かりやすいことです。それから、その背景にあります地域システムの越境。そして、地域主体の越境。これは官民ということも入ってまいります。この三つの越境を考えていこうということです。

それから、越境のイメージですが、これは、わが国の中央自治に至る制度ですが、三層になっております。この階層性は日本だけではなく、もう少し国際ということを見れば、EU(欧州連合)などでも何層かになっています。

越境は、ここを縦切りにしているということです。このような空間的なつながりのなかで、この階層性を越えていくということを志向しております。

越境の段階ですが、第一に境界(Border)の認識ということです。今回、コロナで非常に、この点が明

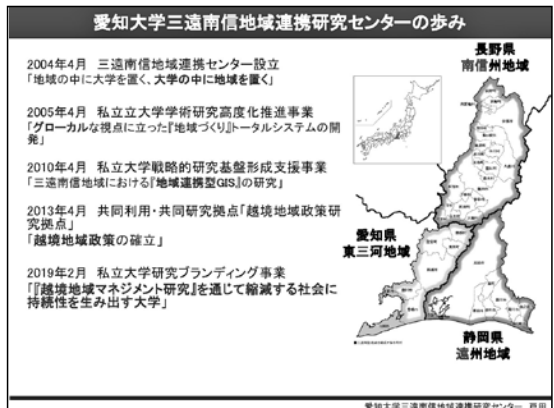
らかになったということでもあります。コロナもボーダーレスのなかで発生してきたということですので、ボーダーがなくなることが、必ずしもよいことではないということですが、その境界を認識し境界を形成しうる特性をみていくことになります。次に、その境界を越えるという越境活動(Cross Border)に着目していこう。それから、境界が結び合わせる越境地域(Inter Region)を考えていこう。このように三段階で考えてまいりました。



スライド2「越境による地域形成」

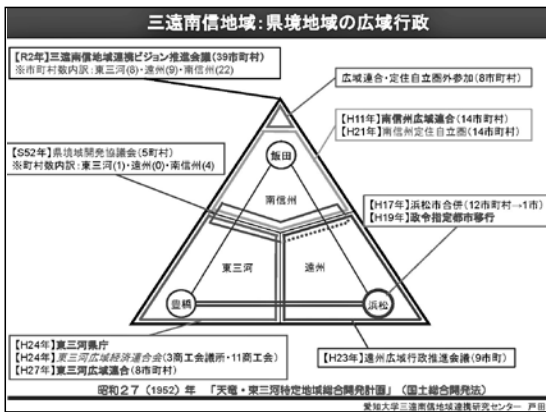
少し具体的な例を示します。越境による地域形成です。これは県のつながりを書きましたが、一般的に、より大きな単位をつくっていく時には、小さな単位の中心をつないでいく考え方をとります。これに対して越境の考え方は、フリンジの部分、縁辺部の空間的なつながり、ある実体的な行動のつながりから物事を考えていこうという、端からの発想を重視しているわけです。

私どもは、こうした越境を「三遠南信」というエリ



スライド3「愛知大学三遠南信地域連携研究センターの歩み」

今日は、広域行政について基調講演していただきますので、少し三遠南信の状況をご説明して、私の趣旨説明を終わらせていただきたいと思います。三遠南信エリアは、静岡側、愛知側、長野側で、県ごとに特徴的な広域行政を取っています。

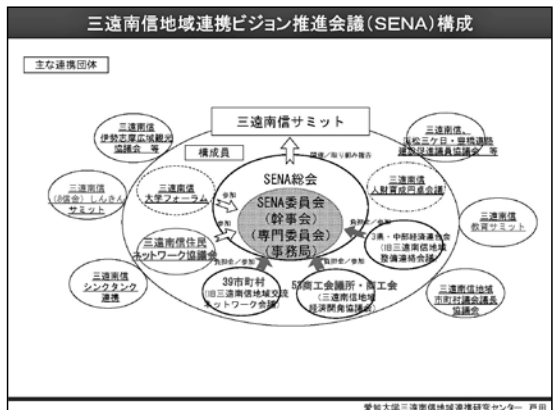


スライド7「三遠南信地域・県境地域の広域行政」

三遠南信地域全体としては、昭和27年(1952年)に策定されました「天竜・東三河特定地域総合開発計画」という国土計画がベースです。天竜川流域と豊川流域という国土計画がつくってきたエリアであるということが、まず一言えることです。制度活用としては、県ごとにかなり違うかたちをとっております。

静岡県は、浜松市が国土縮図型の政令市ということで、中山間地まで含む政令市を中心としています。その意味で、政令市型で広域行政をおこなっています。長野県は広域連合です。市町村の水平の補完ということになるかと思えます。愛知県は、東三河地域がちょっと変わっておりまして、東三河県庁という県の総合出先に、常駐副知事がいるという全国でも非常に珍しい体制を取っています。それと経済団体の広域化、そして、市町村の広域連合、このような三つの異なった広域の制度活用を行っています。

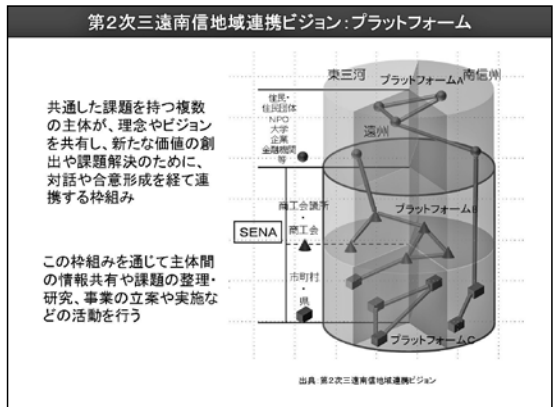
「三遠南信地域連携ビジョン」は県境を越える地域ビジョンで、全国的にも非常に珍しいものです。そのビジョンを推進する協議会で全体の運営を行おうとしています。



スライド8「三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)構成」

「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」を「SENA:セナ」と略しますが、これがその関係者構成です。基礎自治体39、それから経済団体53。あるいは市民団体等々、大学も入っています。これがSENAの内枠で、その外側にそれ以外の信用金庫の連携、教育委員会の連携、あるいはシンクタンクの連携など、多様なかたちになっています。

全体をどう構成していくかということですが、現時点ではプラットフォームをつくらうということになっているわけです。



スライド9「第2次三遠南信地域連携ビジョン:プラットフォーム」

このようなことを背景にいたしまして、今日は基調講演として、前総務省の自治大学校長の佐々木浩先生から、「越境的な広域行政制度の現状と課題」ということでお話をいただきます。これは三遠南信のみならず、全国の動向について示唆をいただくということです。それから、パネルディスカッションで質疑を深化させます。

午後は三つのセッションですが、通常ですと、分科

会を並行でおこなっていますが、今年はオンラインと
いうことで縦につながっています。第一のセッション
では、国土計画的なスーパー・メガリージョンという
比較的広いエリアを捉えながら、鉄道の問題、広域的
な地域づくりの課題、産業の課題、このようなことを
議論いたします。

二つ目のセッションでは、都心拠点地区ということ
で、名古屋の拠点エリアおよびその周辺の話題として
エリアマネジメントに関すること、周辺地域を対象と
した事業の承継、リニア中央新幹線からみたこのエリ
アの位置付けというようなことを議論してまいりま
す。

最後に、第三のセッションは、大都市圏中間地域で
ある三遠南信地域です。そこでおこなわれている地理
的な研究、あるいは中山間地の課題、広域の政令市合
併、コミュニティビジネス、まちづくりといったこと
に焦点を置いて、研究成果を交流いたします。

では、最後までよろしく願いいたします。以上で、
私からの趣旨説明とさせていただきます。ありがとう
ございました。